『法華経』「薬草喩品」の言語

ファリダ・ノール・モフド・ノール
前川健一　訳

はじめに

『法華経』は大乗仏教の聖典すなわち経典全ての中で最も重要で影響力のあるものの一つであり、大乗の教理のほとんど全ての分野で、崇敬され、数百年以上もの間、中国・朝鮮・日本、さらには他の東アジア諸地域にわたって、仏教信者の間の熱烈な崇拝の対象である。（Burton Watson, 1993, p.ix）

鳩摩羅什訳の『法華経（妙法蓮華経）』は、中国・日本の両地域において高名であり、この翻訳にもとづいて、『法華経』は何度となく英訳され、それぞれの労作が、経典のメッセージと意義について極めて洗練された解釈を提供する作品となっている。ワトソンの翻訳は、一九九三年と二〇〇九年の二つの版が出版されている。本稿では、二〇〇九年版を最新版として採用した。ワトソンの翻訳は、日本の東洋哲学研究所とマレーシア創価学会（SGM）によっても公定訳として採用されている。本稿で取り上げる「薬草喩品」は、『法華経』の七つの譬喩の一つである。

『法華経』は二八の章（品）から構成されており、各章が二つの形式、すなわち散文（長行）と韻文（偈）で提示されている点が独特である。各章は、その章の主題を導入する散文で始まり、次いで内容は韻文の形式で示される。この独特の二重の提示形式によって、『法華経』はそれ自身が一つの芸術分野を成している。

方法論

本稿の探求が資料とするのは、『法華経と開結二経』と題されたバートン・ワトソンの翻訳（Burton Watson, 2009）である。分析の焦点は、第五章（137‐143頁）の韻文とするつもりである。詩は全文が二一六行から成る。各詩句には参照の便のため通し番号を振る。

言語的特徴の分析にあたっては、言語的特徴、すなわち、文学技法と二項成句（binomial）の使用に目を向ける。

A　「薬草喩品」の説教調の響き

B　「薬草喩品」における不偏性の言葉遣い

という二点が、使用されている言語についての発見として示されることになろう。

本稿で見出した言語的特徴を描写し、議論するため、偈全体の中から例文を引くことにしたい。

言語的特徴についての簡略な導入

本節では、この文献に見られる主要な特徴への導入を行う。まず初めに、「譬喩」は、本質的に教訓的である。というのは、それは、道徳的・宗教的・倫理的な事柄について、教化と指導を与える文献として分類されるからである。譬喩の言語的特徴は、二つのグループに分けることができる。それは、文学技法と二項成句である。

A　文学技法

修辞表現（imagery）とは、心に生み出される心象を通じて読者が視覚化できるように、劇的な効果を与える、首句反復（anaphora）、形容辞（epithet）、誇張法（hyperbole）、直喩（simile）、隠喩（metaphor）、叙述句などの文学技法の使用を指す。

（一）首句反復は、複数の詩句や文章、段落などの冒頭に、継起的に一つの言葉や句を反復することである。

（二）形容辞は、叙述の技法として使用される言述の形態である。人間や場所の名前に形容詞を付加し、その結果、語りに色合いや生気を加え、その力を得て、そうした人間や場所の何らかの特質を示すのである。

（三）誇張法は、効果をより大きくするよう、陳述を誇張するために用いられる語や句を指す。現実を伝えるという点では実用的ではないかも知れないが、誇張しようとしている情動をもたらすことは可能である。

（四）隠喩は、完全に無関係な二つの事柄に、新しい異なる意味を与えるために用いられる。これを使うことは、主題に様式的な色合いと多様性を加えることに役立つ。

（五）直喩は、「……のような」「あたかも……」「……に似た」といった語をともなう比喩の形式である。

上記のような技法が文中に見出される時、技法についての言及は、関係する行の右側（本翻訳では下部）に【　】に入れて表示することにする。

B　二項成句（binomial）

二項成句は、統辞的な関係という点から同義語や相補語、反意語であるような、単語や、時としては一連の語の、二つ一組を指す。それらは、二重語（doublet）や結合された語彙の対（conjoined lexical pair）といった異なった呼称で呼ばれている。二項成句は多くの言語で普及しており、「すぐに読める」ように好まれる語順があり、そうした語順で出現することの方が多い傾向がある（Benor, S. & Levy, 2006）。語順は、二項成句が出現する言語の、意味論的・音声学的・語彙的要素の結果である。

構造的には、二項成句は多くの場合、「および」「または」などの接続詞によって結合されている（Sauer, 2015）。しかし、時として、接続詞なしで、コンマのよ

うな句読点を使用することで示されることもある。これらは短縮二項成句（reduced binomial）と呼ばれる。たとえば、マレー語では、suami isteri（夫・妻）のように接続詞は全く無く、対義語というより「反対語」を指すようである（Asmah Hj. Omarとの個人的意見交換）。

以下は、種々のカテゴリーを例示するため、第五章から採った例文である。該当する二項成句のカテゴリーを、偈の後の角括弧（［　］）の中に示す。(1)

［対義語（antonym）］、［補完語（complementary）］、［同義語（synonym）］

（議論の便のため、二項成句に下線［翻訳では傍点］を付し、［英訳の偈の］行番号を示す）。

（一）同義語の例

充足（I bring fullness and satisfaction）世間　［同義語］（１１１行）

この例では、同義語は接続詞andによって結合されている。

（二）対義語の例

利根鈍根（of keen capacity, of dull capacity）［対義語］（１１８行）

上掲は対義語（利、鈍）であり、接続詞無しで書かれ、句読点によって分離されているので、「短縮二項成句」と称される。

（三）補完的な意味論的関係による二項成句の例

而得増長（growth and maturity）［補完語］（１９８行）

上掲の語の対は、意味論的関係において補完的であり、「増（growth）」は「長（maturity）」に帰結し、両者は関連するサブ・グループに属する。

「薬草喩品」の言語的特徴

本稿では、不偏性の言葉遣いに伴われた、譬喩の説教調の響きを描写する言語的特徴を示す。以下の議論は、言語的側面に焦点を当て、立ち入った教学的解釈を行うことは控えたい。

資料からの例文は、筆者が見出した言語的特徴を議論することを容易にするものを集めている。研究の結果が示すところから、文学技法と二項成句が、この譬

喩のメッセージを伝えるために結合されていることが見いだされた。

文学技法と二項成句は、議論を容易にするために、強調をつけている（それぞれ、太字と下線［邦訳では傍点］によって）。筆者が見出した言語的特徴は、各連・各文の下部に注記する。

A 「譬喩品」の説教調の響き

仏典である『法華経』は、智慧と慈悲についてのシャーキャ・ムニ（ブッダ・ガウタマ）の教えに由来するメッセージを含んでいる。このことは以下のように説明されている。

『法華経』は、あらゆる人間の生命状態を向上させて、彼らを自らに等しくするという、久遠の昔に立てた釈尊の誓いを明らかにし、この経典を説いている時点ではこの誓いが満たされていることを示している。（http://www.sgi-bel.org/en/history/the-lotus-sutra）

道徳的・宗教的・倫理的な事柄について教育的な知識と指導を提供する文献は、教訓的文献と考えられている。分析の示すところでは、「薬草喩品」にはこの教訓的な特徴が露呈している。

一、ブッダの出現

ブッダの出現は、「薬草喩品」の中で反復され、彼の出現を卓越したものにしている。「薬草喩品」の偈の部分は、法を説くこと（4行）を目的とする「法王」という形容辞を含む冒頭の偈で始まる。法王は、もう一つの名前である「如来」（5行）と同義である。

（例一）

破有法王
出現世間
随衆生欲
種種説法
如来尊重（worthy of honour and reverence）［同義語］
智慧深遠（profound and far-reaching）［同義語］
（1～6行）

例一では、同義語である第五行（「尊」「重」）と第六行

『法華経』の各国語への翻訳が進んでいる。上段左からタイ語・ラオス語・ギリシャ語・ドイツ語、中段左からフランス語・イタリア語・英語（2009）、英語（1993）の訳。下段左からハングル版、現代中国語版（繁体字）、日本語の訓読版

（「深」「遠」）の二項成句が、如来の真価と智慧に注目を引き付ける。

「雲」の隠喩は、それと似た出現を描写するために用いられている（59行）。隠喩は、如来が出現した大地を覆う「雲」を描き出すために用いられている。

（例二）

仏亦如是
出現於世
譬如大雲　【隠喩／雲】
普覆一切（that covers all things **everywhere**）【誇張法】
（57～60行）

「薬草喩品」では、多くの例でブッダを「雲」に喩えている。例二では、「大雲」は普く大地の全体を覆う保護膜である（60行）。

以下の例では、諸経の王は、雨によって大地を冷やす慈悲深い雲（19行）に類似している。二項成句は、雲にともなうものや、雲の到来に引き続いて起こることを、生き生きと描いている。

（例三）

慧雲含潤
電光晃曜（gleams and flashes）［同義語］
雷声遠震
令衆悦豫
日光掩蔽（veiled and hidden）［同義語］
地上清涼
霑霶垂布（descend and spread）［補完語］
如可承攬　（19～26行）

輝ききらめく電光（20行）と、遠くでとどろく稲妻の響き（20～21行）をともなって、雲は自らの下にある大地を冷やす。熱い太陽の光は「掩蔽」（23行）され、暗い雲の塊は空に「垂布（垂れ下がり広がる）」（25行）して日陰を生み出す。二項成句の使用によって、この雲と、諸経の王の到来を生き生きと描写している。このように、「薬草喩品」では、大地を覆い、冷やし、保護する雲のすがたを描くことで、到来の意義と現にそこにいることの影響をほのめかすのである。

以下の偈では、雨が広く覆うことを、入念に描写しているが、それは教えないしは法の隠喩であり、どちらも広大で、地上の「四方に倶に下る」（28行）ものである。二項成句の使用は、雨が覆う領域の広大さを強調し、雨は種々の地形によっても「幽邃（遠く離れた場所）」によっても妨げられない（31～32行）。このように広く覆うことで、様々な種類の植物が繁茂することができるのである（33～36行）。

（例四）

其雨普等　【隠喩】
四方倶下
流澍（flow and saturation）無量　［補完語］
率土充洽
山川險谷（to the ravines and valleys of the mountains and streams）［同義語］
幽邃（the remote and secluded places）所生　［同義語］
卉木薬草
大小（large and small）諸樹　［対義語］
百穀苗稼
甘蔗蒲萄　（27～36行）

二、ブッダの宣言

説教調の響きの一部として、権威を帯びた調子が、以下の第六九行での、自分からの宣言の中にある。

（例五）

我為如来
両足之尊　【形容辞】（69～70行）

充足（I bring fullness and satisfaction）世間　［同義語］
（111行）

最初の引用は、「如来」という形容辞がブッダを指すことを確認している。「薬草喩品」の他の箇所で使用されている他の形容辞は、「法王」（1行）と「世尊」（66行）である。第七〇行には、「両足（二本足のもの）」として言及される人間たちの中で最も「尊」という、自らの地位の宣言がある。第一一一行は、如来に意図された役割についての、もう一つの宣言である。

次の例の第七二行と第七三行では、ブッダが出現した目的が説明される。これは、以下の例で入念に描写される。

（例六）

出于世間
猶如大雲　【直喩】
充潤一切
枯槁（dry and withered）衆生　［同義語］
皆令離苦
得安穏（peace and security）楽　［同義語］
世間之楽（**the joys of this world**）　【首句反復】
及涅槃楽（**the joy of nirvana**）（72～79行）

三、法が単一であることの宣言

譬喩では、法が単一であることが繰り返し宣言される。「雨」という隠喩では、味わいが単一であることが繰り返し描写され、メッセージを強調している。この宣言は、以下の例の中に引用したものに見いだされる。

（例七）

其雲所出
一味之水　【叙述句】（41～42行）

佛所説法
譬如大雲
以一味雨
潤於人華
各得成実　（198～202行）

第八九行から第九一行にかけては、宣言は第一声でなされ、涅槃と呼ばれる解放へと導く単一性を確証するのである。

（例八）

甘露浄法　【隠喩】
其法一味
解脱涅槃　（89～91行）

それ故、上掲の例での「一」という語の繰り返しが意図するのは、単一性が教えの特徴であることを強調することにあるのである。

四、信仰者および不信者への宣言

以下の例は、信仰者および不信者に提供された教訓的メッセージを描き出している。以下の一節は、二つの異なる人間集団を描写している。

（例九）

有智若聞
則能信解（believe and understand）［同義語］
無智疑悔（doubts and regrets）［同義語］
則為永失　（9～12行）

二項成句の使用によって、信仰者はメッセージを「信解」する賢人（10行）であるのに対して、不信者は「疑悔」を懐き（11行）、永遠に過ちの中で生きることが描写されている。

五、法と成仏に向かう手立て

この「薬草喩品」では、法を獲得し成仏を達成するための修行方法と手立てを提供している。

例一〇と例一一では、すべての生き物、すなわち神々と人間の両方（80行）に呼びかけている。彼らは、与えられたメッセージに気づき、注意を向けつづけている。彼らは段階的な修行を行うことになる（177～178行）。

（例一〇）

諸天人衆（heavenly and human beings）［対義語］
一心善（carefully and with one mind）聴　［補完語］
皆応到此（gather around）［補完語］
観（and observe）無上尊　（80～83行）

（例一一）

漸次（gradually and stage by stage）修行　［同義語］
皆得道果　（80～83行）

以下の例一二では、「修学（修行と学習）」（２１５行）を通じて、成仏が確実に達成される。ここで使用されている補完的な二項成句によって、修行するときは、その過程でも学ぶということが描かれている。

（例一二）

汝等所行
是菩薩道
漸漸修学（practice and learning）［補完語］
悉当成仏　（２１３～２１６行）

獲得される覚りの境地の種々の段階は、以下の偈で、譬喩全体で説明されている。以下の例では、三種類の薬草が定義されている。この集団は「小」（１２６～１２７行）「中」（１２８～１３５行）「上」（１３６～１３９行）の三種に分けられている。

（例一三）

釈梵諸王
是小薬草
知無漏法
能得涅槃
起六神通
及得三明
独処山林
常行禅定
得縁覚証
是中薬草
求世尊処
我当作仏
行精進定（diligent effort and practicing meditation）［補完語］
是上薬草　（１２６～１３９行）

もう一つ言及されている集団は、小樹と大樹であり、それらは彼らの信仰にもとづくもので、彼らは仏子と呼ばれている（１４１行）。

（例一四）

又諸仏子
専心仏道
常行慈悲（mercy and compassion）［同義語］
自知作仏
決定無疑（certain of it and never doubting）［同義語］
是名小樹　（１４１～１４６行）

安住神通　【類比】
転不退輪
度無量億　【誇張法】
百千衆生　【誇張法】
如是菩薩
名為大樹　【隠喩】（１４７～１５３行）

誇張法の使用は、「不退の輪を転ずる」こと（１４８行）によって救済される多数の者の存在を強調している。

B　「薬草喩品」における不偏性の言葉遣い

「薬草喩品」では、全ての人に向けられた不偏性のメッセージが強調されている。それ故、誰も他の人の上に立つことはないし、全ての人は平等に扱われる。このメッセージは、修辞に満ちた言葉遣いと、二項成句の使用によって、伝達される。これは、本節で示したように、この譬喩を通じて数か所にわたって表現されている。

一、全てのものに対する法の不偏性を示す

「薬草喩品」では、教えは全てのものに向けられているというメッセージを伝えている。このメッセージは、「薬草喩品」の各所に現れている。以下の例では、「平等」という言葉は、この意図されたメッセージが全てのものに向けられていることを描写している。

（例一五）

仏平等説
如一味雨　【直喩】（１５２～１５３行）

例一五には、ブッダの説法を指す「一味の雨の如し」（１５３行）という直喩がある。

対義語から成る二項成句の使用によって、この不偏性が明確に描き出されている。例一六における対義語は、様々な立場の人々の大きな広がりを生み出している。たとえば、尊貴で優秀な者から下賤で劣った者まで、同様に、法を遵守する者と破壊する者といったように。法は、全ての者に中立的で開かれている。それ故、全ての者は平等な扱いを受けるのである。

（例一六）

貴賤（Eminent and lowly）上下（superior and inferior）［対義語］

持戒毀戒（observers of precepts, violators of precepts）［対義語］

威儀具足（fully endowed）［対義語］

及不具足（not fully endowed）

正見邪見（of correct views, of erroneous views）［対義語］

利根鈍根（of keen capacity, of dull capacity）［対義語］（１１２～１１７行）

二、平等と不偏性の宣言

例一七での言明は、法は、個人であれ集団であれ、全ての者に平等に説かれていることを宣言しているが、一方、例一八では、全ての者に対して不偏であり、いかなる依怙贔屓も個人的意向もないことが宣言されてもいる。

（例一七）

平等説法

如為一人

衆多亦然（１０３～１０５行）

（例一八）

無有彼此（I have **no mind to favour** this or that）

愛憎之心（to love one or hate another）［対義語］

我無貪著（greed or attachment）［対義語］

亦無限礙（limitation or hindrance）［同義語］

（99～１０２行）

検討

ワトソンの翻訳（2009）を検討する中で、文学技法と二項成句がこの資料で集中的に使用されていることが発見された。「薬草喩品」については、ブッダの教えを伝えることを目的とする教訓的文献として、使用されている言語について検討した。譬喩の主旨として、次の五つを特定した。すなわち、ブッダの到来の告知、彼の出現の目的についての布告、教えの単一性の宣言、誰が信仰者で、どのような利益を受けるのかを、不信者と対比して言明すること、法に向かい成仏を遂げるための手立てについての説明、という五つである。

教訓的文献として、「雲」と「雨」が隠喩として醸し出す雰囲気が、教えの広がりを生き生きと描き出している。この隠喩の選択によって、雲が大地を熱い太陽光から保護する様子や、雨が潤いをもたらし大地を冷ます様子に含意されているメッセージを、信者たちがイメージすることは容易である。ここで用いられている修辞は、信者に約束された保護と、彼らが受けることになる利益に近似している。

文学技法と二項成句の選択によって強調された不偏性を語る言葉遣いは、誰もがブッダによって同様に扱われ、他の人より上に置かれる人は誰もいないという点を明確にすることを意図している。ブッダは公平であり、彼の教えは全ての者に開かれ、少しの依怙贔屓もなく知識は平等に分け与えられる。

要約すると、筆者の見出したところから、同義語・対義語・意味論的補完語からなる二項成句が見られることが示された。この譬喩に見られる二項成句の選択は、ブッダの到来と成仏への道について、その意味とメッセージを伝える手助けとなっている。この資料全体に見られる一つのパターンは、同義語からなる二項成句（例四を参照）が、使用されている隠喩（すなわち雲と雨）の特定の属性を詳細なものにする傾向があるということである。同義語は、詳細にされている属性ないし特徴に強調をつける。他方、対義語は、問題になっている要素の範囲を記述する。たとえば、例一六では、平等な扱いを受ける人々の中には、貴い人々が含まれ

るだけでなく、賤しい人々も排除されてはいないのである。

謝辞

本稿の一部は、二〇一五年の［東洋哲学研究所］第三〇回学術大会で発表したものです。研究員各位にお会いする機会を設けていただき、この論文の発表を可能にしてくださった東洋哲学研究所に感謝申し上げます。二項成句について示唆をいただいたザウアー教授に感謝申し上げます。さらに、ダトゥ・クリストファー・ボイ教授には、この調査研究のために譬喩を選んでいただいたことに感謝申し上げます。末筆ではありますが、英訳『法華経』の言語を調査する機会をいただいた全ての方々に御礼申し上げたいと思います。私にとっては多くの洞察を与えてくれる経験でした。

出典

Watson, B. 2009. *The Lotus Sutra and Its Opening and Closing Sutras*. Tokyo: Soka Gakai.

参照文献

Benor, S. & Levy, R. (2006). The Chicken or the Egg? A Probabilistic Analysis of English Binomials. *Language* 82 (2), 233-278.

Gee, J.P. (2005). *An Introduction to Discourse Analysis: Theory and Method*. London: Routledge.

The Lotus Sutra Project. Retrieved from http://lotus.obdurodon.org/about.html

The Lotus Sutra. Retrieved from http://www.sgi-bel.org/en/history/the-lotus-sutra

Watson B. 1993. *The Lotus Sutra*. New York: Columbia University Press.

Watson, B. 2009. *The Lotus Sutra and Its Opening and Closing Sutras*. Retrieved from http://www.nichirenlibrary.org/en/lsoc/toc/

Sauer, Hans. 2015. Binomials in the History of English. Public Lecture presented on 25 March 2015 at the University of Malaya (Centre for Civilisational Dialogue--Faculty of Languages and Linguistics Collaboration).

Asmah Hj. Omar. Personal Communications on 25 March 2015.

訳注

（1）以下では、『法華経』は漢文の原文を示し、必要に応じてワトソンによる英訳を付すことにする。『法華経』は創価学会教学部編『妙法蓮華経並開結』（創価学会）にもとづく。ワトソンの英訳はSGIホームページのStudy Materialで全文が読める。

（2）ダトゥは、マレーシアで各州のスルタンより与えられる尊称。

（Faridah Noor Mohd Noor／マラヤ大学文明間対話センター所長）
（訳・まえがわ　けんいち／東洋哲学研究所研究員）